

第2章

学校図書館活用を すすめるために



2－（１）学校図書館全体計画・学校図書館活用年間計画について

学校図書館が教育課程全般に広くかかわり、計画的に活用を展開するためには、全教職員の共通理解のもとに年間計画を立てる必要がある。年度当初に、学校の年間計画と同時に図書館活用の年間計画を提示することで、担当者が代わっても図書館活用教育が継続的な活動につながる。

【年間計画作成の流れ】

学校図書館教育目標の作成（学校教育目標を具体的に示す内容）

学校図書館指導目標・計画作成（学校指導目標に沿った内容）

学校図書館経営（運営）計画（学校経営計画を参考に）

年間活用計画

図書館行事や利用指導/学年/教科の授業利用にあわせる

学校図書館活用計画は、あるかな？
授業実践をしながら、加筆、修正し、
次年度の計画に生かそう



【特別支援学校の学校図書館年間活用計画の例】

令和4年度 学校図書館年間活用計画

教科	4月	5月	6月	7・8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学部	・みんななかよし ●ダイジー絵本 (通年) ●春の絵本	・ふれあいピク クをしよう ●★制作に關 する本	・友だちと一緒に やってみよう ●6月の絵本 紅、雨、かえる、か たつわり 等 ●★夏の工作に 關する本 ★調理の本 ★夏の行事に關 する絵本 ●★掃除、片付け など身辺自立 に關する本	★ぼく、わたしの からだ ●夏の絵本 自然 ★はがき、お手紙 の本	★造形・制作に關 する本 ・ふれあいまつ りをしよう ★遊びやゲーム に關する本 ●秋の絵本	・ふれあいまつ りをしよう ・秋を楽しもう ●★秋の自然・ 制作遊び ●★ハロウィン の本 ●★校外宿泊 鳥取県東部の 観光雑誌・パン フレット等	●★調理の本 (スイーツ)	・冬のくらしを 楽しもう ★冬の遊びや行 事に関する本 ●調理の本 (冬のスイーツ) ●かるた ●絵あわせカー ド	・ぼくやわたし のからだ ★手あらい (清潔) ★うがい (清潔) ★健康の本 ★栄養の本 ★二次性徴の本 ●げん玉の本 ●あやとりの本 ★歯磨き (清潔)	・一年の思い出 ★卒業に向けて 友達に贈る言葉 の本	
音楽	・リズムに のって ★教科書 (音楽)	★教科書 (音楽)	・友だちと 合わせて ★教科書 (音楽) 【授】手遊び	★教科書 (音楽)	・リズムに 合わせて ★教科書 (音楽)	★教科書 (音楽)	・パートに わかれて ★教科書 (音楽)	★教科書 (音楽)	・いろいろな音 を楽しもう ★教科書 (音楽)	★教科書 (音楽)	・気持ちを こめて ★教科書 (音楽)
自立活動	★自立活動 季節や春の行 事に関する絵本		★自立活動 季節や夏の行 事に関する絵本			★自立活動 季節や秋の行 事に関する絵本		★自立活動 季節や冬の行 事に関する絵本			★自立活動 季節や春の行 事に関する絵本
特別活動	【授】図書館オリ エンテーション	●野菜作りの本 (畑作り)	【授】パネルシア ター・読み聞かせ 等		マルチメディア DAISY図書 DVD鑑賞	【授】パネルシア ター・読み聞かせ 等			【授】パネルシア ター・読み聞かせ 等		マルチメディアD AISY図書DV D鑑賞
日常生活 の指導 体育 他			●★心と体の学習						●★心と体の学習		

児童生徒が使用する資料・・・●

教師が参考にする資料・・・★

司書教諭・司書による学校図書館を活用した授業・・・【授】

※夏季休業中の図書館開館（テーマ別活動）

【中学校の全体計画の例】

令和4年度 学校図書館教育全体計画

学校教育目標

たくましい根性をもって ひたすらに真理を求め 敬愛に生きる人間の育成

本年度の重点目標

◎生徒が主役！⇒「あい」で生徒が成長する学校！

- ・ 確かな学力 ⇒「あい」で学びを深める
- ・ 自己有用感 ⇒「あい」でつながる人間関係

鳥取県の学校図書館活用教育で目指す方向

- ◆人と情報を結ぶ(つなげる)
- ◆学びを豊かにする(ひろげる)
- ◆未来をつくる(そだてる)

図書館教育のねらい

- 読書意欲を高め、豊かな心情と幅広い知識を身につける。
- さまざまな資料にふれ、図書館の機能を理解し活用できるようにする。
- 多様な資料から目的に応じた情報を主体的に選び課題解決を図れるような情報活用能力を育成する。

図書館教育がめざす生徒像

- ◆ 主体的に考えて判断し、課題解決に向けて多様な資料から必要な情報を活用することを通して、主体的・協働的に学び続ける生徒。
 - ◆ 並行読書等、発展的な読書により、興味を広げ、深い、学習内容についての知見と思考を深める。
- (指導の重点)
- 積極的に読書に取り組み、「豊かな人間性」「真の学ぶ力」「生きる力」を身に付ける。
 - 自己実現の手段としての情報活用能力を育成する。

図書館運営方針

- 読書センターとして、魅力ある読書指導・環境整備に努める。
- 学習・情報センターとして、学びを支える資料の収集・十分な提供に努める。
- 教職員、保護者、地域人材、公共図書館、公民館等との連携を図り、理解や協力を得る。

達成のための具体的な方策

- 積極的に読書に取り組もうとする態度を育成する。
- ・ 年間を通じての朝読書の実施
- ・ 計画的な蔵書整備(図書館だよりでの本の紹介や生徒のリクエスト対応など)
- ・ 委員会を中心とする図書館利用・読書啓発活動(本の紹介など)
- ・ 読書週間の実施など
- ・ 読書指導法の充実(ブックトーク・アニメーション・ビブリオバトル等)

- 情報活用能力を育成する。
- ・ 各学年、教科や分掌と連携した学習に役立つ資料・蔵書の整備及び情報の提供
- ・ 図書館資料を活用した授業の指導者への支援
- ・ 図書館利用オリエンテーションの実施
- ・ 図書館環境整備(掲示物・本の展示等)
- ・ 図書館資料を活用した授業づくりの推進

学校図書館を活用することで身に付けたい情報活用能力

探究活動

課題の設定と情報収集	情報の活用(整理・分析)	まとめ・表現	振り返り・改善
・ 学習課題を解決するための適切な資料や収集方法について考え、具体的な学習課題を立てる。 ・ 目的や意図に応じて多様な情報源を活用し、必要な各種資料を検索する。 ・ 複数の情報を適切に比較、検討、分類し、情報の持つ価値や希少性等を判断しながら情報を選択する。	・ 目的や状況に応じてデータを統計的に整理したり、「考えるための技法」を組み合わせて活用したりして整理する。 ・ 複数の情報を目的に応じて比較、分類、関連づけ、多面的・多角的に分析する。 ・ 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係を捉え	・ 様々な情報を比較、分類、単純化したり、情報を追加したり、再構築したりする。 ・ 情報を整理して、目的や意図に応じてわかりやすく要点を押さえて自分の意見の関係性を考えてまとめる。 ・ 表現手段の特徴を理解し、目的、意図に応じて情報を統合して表現する。 ・ 情報発信手段としての機器の特徴を理解し、根拠を明確にして効果的に伝達する。	・ 課題が明確なもので、課題解決に向けての内容、方法、表現が効果的であったか振り返る。 ・ 表現、伝達されたものの中から、課題解決のために集めた情報の有効性、必要性、信頼性を判断し話し合う。

各領域の目標

各教科	道徳	総合的な学習の時間	特別活動	その他
・ 図書館資料を活用した学習を通して、思考力・判断力・表現力を身につける。	・ さまざまな資料を通して、自分の考えと違う考え方を尊重したり自主的に判断したりする力を育てる。	・ 資料を活用し、課題の探究・解決を図ることで情報活用能力を育てる。 ・ まとめ方や発表の仕方を身につけ、伝え合う力を育てる。	・ 図書館利用の仕方や情報活用方法を身につける。 ・ 図書館を活用した委員会活動の活性化を図る。	・ 朝読書を通して、読書の日常化を図る。 ・ 保護者・地域と連携の充実を図る。

◆目的に応じて、図書館を適切に利用し、学び方を身に付け、課題解決に向けて主体的、協働的に学ぶ児童

◆目的に応じて、図書館を適切に利用し、学び方を身につけ、課題解決に向けて主体的・協働的に学ぶ児童

A 目的を把握し、適切な学習課題を決める。

Frequency	Percentage
Never	0%
Sometimes	100%
Often	0%
Always	0%

2－（２） 学校図書館の機能を活用することで身に付けたい情報活用能力（系統表）

「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン改訂版」別表より

	幼稚園・保育所・ 認定こども園	小学校			中学校	高等学校	学習指導要領に基づいた 体系表の主な関連項目
		低学年	中学年	高学年			
子ども像 育てたい	◆絵本や物語を楽しみ、 表現することを楽しむ 子ども	◆読書や調べる楽しさを知り、 図書館の正しい利用の仕方を 身につけた児童	◆いろいろな種類の資料を読 み、課題解決に向けて、友 達と関わり合いながら意欲 的に学ぶ児童	◆目的に応じて、図書館の資料を適切 に利用し、学び方を身につけ、課題解 決に向けて主体的・協働的に学ぶ児 童	◆主体的に考えて判断し、課題解決に向け て多様な資料から必要な情報を活用す ることを通して、主体的・協働的に学 び続ける生徒	◆将来の進路を見据え、自己実現のため の課題解決に向けて、的確な情報を適 切に活用することを通して主体的・協 働的に学び、自分の考えを表現する生 徒	
課題の設定	○読み聞かせを楽しむ。	○身近なことや経験したことなど から興味・関心に応じて学習課題 を決める。	○興味・関心に応じて具体的な 課題を決める。	○目的を理解し、適切な学習課題を決 める。	○学習課題を解決するための適切な資料 や収集方法について考え、具体的な学 習課題を立てる。	○中学校までの知識やスキルを基に学 習課題を解決するための資料の読み解 きや収集方法について検討しながら、 適切な学習課題を立てる。	G A-①
情報の収集	○好きな本を見つけ絵本 を楽しみながら読むと する。 ○友達や先生の話に関 心をもって聞こうとす る。	○題名や表紙などに着目して必要 な図書を見つける。 ○資料の中から目的に合わせて情 報を選ぶ。	○目的に応じて、図書資料及びイ ンターネット等の複数の資料の中 から必要な資料を集める。 ○二つ以上の情報の中から、目 的に合ったものを選ぶ。	○目的に応じて、図書資料及びイン ターネット等の複数の資料の中か ら課題解決に役立つか判断し、資 料を集める。 ○複数の情報の中から、適切な方法 を使って課題解決に必要なものを選 ぶ。	○目的や意図に応じて多様な情報源 を活用し、必要な各種資料を検索 する。 ○複数の情報を適切に比較、検討、 分類し、情報の持つ価値や希少性 等を判断しながら情報を選択する。	○自分の設定した課題が見通しを持 って解決できるか考察しながら、根 拠となる多様な資料収集を的確に 行う。 ○目的に応じて多岐にわたる検索 方法で情報の特性を生かした様々 な資料を選ぶ。 ○常に複数の情報を適切に比較、 検討、分類し、情報の持つ価値や 希少性等を判断しながら情報を選 択する。	G A-① G B-①
整理・分析	○図鑑を見て楽しく調べ ようとする。 ○友達の思いを受け止 めようとする。 ○生活の中で必要な言葉 を使おうとする。	○簡単な絵や図、表などを用いて 情報を整理する。 ○共通と相違、順序などの情報と 情報との関係を捉える。	○情報同士のつながりをみつけ たり、観点を決めた簡単な表や グラフなどや習得した「考える ための技法」を用いて整理する。 ○考えと理由、全体と中心など の情報と情報との関係を捉える。	○目的に応じた表やグラフ、「考える ための技法」を適切に選択・活用 し、情報を整理する。 ○原因と結果など、情報と情報と の関係を捉える。	○目的や状況に応じてデータを統計 的に整理したり、「考えるための技 法」を組み合わせ活用したりして 整理する。 ○複数の情報を目的に応じて比較、 分類、関連づけ、多面的・多角的 に分析する。 ○意見と根拠、具体と抽象など情 報と情報との関係を捉える。	○目的や状況に応じてデータを統計 的に整理したり、「考えるための技 法」を自在に活用したりして整 理する。 ○自分の考えとは異なる意見の資 料も取り入れ、様々な考えや解釈 のあることを理解した上で総合 的に判断して活用する。 ○主張と論拠、主張とその前提 や反証、個別と一般化等の情報 と情報との関係を捉える。	G B-① G B-②
	○考えたことを自分な りに表現しようとする。 ○自分の思ったことを相 手に伝えようとする。 ○友達や先生とのコミュ ニケーションを楽しむ。	○気づいたことや分かったことを記 録し、自分の言葉でまとめる。 ○相手を意識し、順序に気をつけ て、わかりやすく表現する。	○必要な情報を箇条書きで要点 をまとめる。 ○表現方法を相手に合わせて選 択し相手や目的に応じ、自他の 情報を組み合わせ適切に表現す る。	○事実、引用、要約などと自分の 考えを区別して分かりやすくまと める。 ○構成、レイアウトを工夫したり、 絵や文、グラフ、図や表などを 使ったりして、効果的にまとめる。 ○目的や意図に応じて複数の表現 手段を組み合わせて表現し、聞き 手とのやりとりを含めて効果的 に表現する。	○様々な情報を比較、分類、単純 化したり、再構築したりする。 ○情報を整理して、目的や意図に 応じてわかりやすく要点を押さ えて自分の意見の関係性を考え てまとめる。 ○表現手段の特徴を理解し、目的、 意図に応じて情報を統合して表 現する。 ○情報発信手段としての機器の特 徴を理解し、根拠を明確にして 効果的に伝達する。	○目的に応じて選択した資料を論 理的に読み解き、資料を多面的、 多角的に分析し自分の課題に関 連付けることができる。 ○選択した情報を自分の意見と比 較、分析しながら構成を考え、 論点をまとめる。 ○表現手段の特徴を理解し、目的、 受け手の状況に応じて適切で効 果的な組み合わせを選択・統合 し表現する。 ○情報発信手段としての機器の特 徴を理解し、根拠を明確にして 最も効果的な方法で伝達する。	G B-① G B-①
まとめ・表現 振り返り・改善		○教師と共に課題を決め、内容 の見通しを持って課題解決でき たか振り返る。 ○友達の表現のよいところを見 つけて感想を伝え合う。	○具体的な課題を決め、内容の 見通しを持って計画を立て、課 題解決できたか振り返る。 ○友達の表現のよさについて意 見を述べ合う。	○課題が適切で、見通しを持って 内容や方法について学習を立て、 解決することができたか振り返 る。 ○学習や学習過程について友達 の表現のよさを伝えたり、助言 したりする。	○課題が明確なもので、課題解決 に向けての内容、方法、表現が効 果的であったか振り返る。 ○表現、伝達されたものの中か ら、課題解決のために集めた情 報の有効性、必要性、信頼性を 判断し話し合う。	○課題設定から調査、発表まで の一連の取組みについて、客観 的な自己評価を行う。 ○課題設定から調査、発表まで の一連の取組みについて、客観 的な相互評価を行い、自分の学 びにいかす。	G C-①
学校図書館の利活用に支援を必要とする子どもについては、実態やニーズに応じて、柔軟かつ適切な指導を行う。							

※「振り返り・改善」は、探究的な学習の過程ごとにも行う

※関連項目の **G** は、「学習指導要領に基づいた情報活用能力体系表」と特に関連があるもの。A は知識及び技能、B は思考力・判断力・表現力等、C は学びに向かう力、人間性等を示している。A①は情報と情報技術を活用して問題の発見・解決の方法を身に付ける。B①は情報を結びつけて新たな意味を見出したり、問題発見・解決に向けて適切かつ効果的に情報を活用する。B②は様々な事象を情報と結び付けて捉える。C①は情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して社会に参画し、発展に寄与しようとする。を示している。

※幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領、学習指導要領、鳥取県教育振興基本計画を基本に、全国 SLA「情報資源を活用する学びの指導体系表」、横浜市教育委員会「学校図書館教育指導計画の手引き」、京都市教育センター「学校図書館の活用を通して付けたい力系統表（小・中学校版）」、松江市学校図書館支援センター「学び方指導体系表」を参考に作成



学習指導要領に基づいた情報活用能力体系表（鳥取県教育委員会） R3.2 版

分類	資質能力	求める力の背景	資質・能力の3つの柱で整理した情報活用能力	情報活用能力ベーシック					小学校			中学校	高等学校	
				課題の設定	情報の収集	整理分析	まとめ表現	振り返り改善	低学年	中学年	高学年			
A	知識及び技術	実際の社会や生活の中で生きて働く力	①情報と情報技術を活用して問題の発見・解決の方法を身に付ける	○				○	・見つけた不思議や疑問を解決するには順序があることが分かる	・問題解決や表現したいことの手順を簡単に図示する	・問題解決や表現したいことの手順を図示したり、評価・改善する	・課題解決の流れを構造的に図示し、実行後、評価・改善する	・課題解決の流れを構造的に図示し、実行後、評価・改善する	
						○	○	○	・いろいろな方法で情報を集める	・いろいろな方法で情報を集める	・仮説を確かめるために必要な情報が何かを考える	・課題解決に向けてどのような情報が必要かを考える	・課題解決に向けてどのような情報が必要かを考える	
			②情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響について理解する	○				○	・集めた情報をいろいろな方法で分ける	・集めた情報を比較・関連付けしながら整理する	・集めた情報をもとに、仮説を確かめる	・比較、分類、関係付け等、目的に応じて情報を整理する	・主張と論拠、個別と一般化等の情報同士の関係を見出す	
B	思考力・判断力・表現力	未知のものにも対応できる力	①情報を結びつけて新たな意味を見出したり、問題発見・解決に向けて適切かつ効果的に情報を活用する	○	○	○	○		・身近な事象から感じた不思議や疑問に基づいて課題を発見したり、設定したりする	・日常の事象から思いついた疑問に基づいて課題設定する	・地域や社会の事象に基づいて課題設定する	・地域や社会の社会課題に基づいて課題設定する	・国や世界規模の社会課題に基づいて課題設定する	
									・身近なところから情報を集める	・集めた情報を比較、関連付けし、情報の関係性を見出す	・集めた情報同士の関係性を見出す	・目的や状況に合わせて統計的に情報を整理する	・目的に応じて複数の収集手段を選択しながら情報収集する	
									・集めた情報を同じ情報と違う情報に分ける	・「考えるための技法」を活用しながら論理的にまとめる	・「考えるための技法」を活用してより妥当な考えにまとめる	・「考えるための技法」を活用しながら論理的にまとめる	・目的や状況に合わせて統計的に情報を整理する	
								・写真や絵、短い言葉を組み合わせて分かりやすくまとめる	・表やグラフを使って集めた情報をわかりやすくまとめる	・表やグラフを使って集めた情報を効果的にまとめる	・表やグラフを使って集めた情報を効果的にまとめる	・「考えるための技法」を活用してより妥当な考えにまとめる		
								・まとめたものを使って相手に分かりやすく伝える	・まとめたものを使って相手にわかりやすく伝える	・まとめたものを組み合わせて相手にわかりやすく伝える	・まとめたものを組み合わせて相手にわかりやすく伝える	・表やグラフを使って集めた情報を効果的にまとめる		
C	学びに向かう力・人間性等	学んだことを人生や社会に生かそうとする力	①情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して社会に参画し、発展に寄与しようとする		○	○			・集めた情報から全体を把握し、それを自分の言葉でまとめる	・集めた情報を組み合わせて、情報の特徴を捉える	・集めた情報から類似点や規則性を見出す	・目的に応じた情報活用を通して、情報の傾向と変化を捉え、問題に対するいくつかの解決策を考える	・目的に応じた情報活用を通して、モデル化やシミュレーション等を行いながら情報の傾向と変化を捉え、多様な立場を想定し、問題に対する多様な解決策を明らかにする	
									・集めた情報から全体を把握し、それを自分の言葉でまとめる	・集めた情報を組み合わせて、情報の特徴を捉える	・集めた情報から類似点や規則性を見出す	・目的に応じた情報活用を通して、情報の傾向と変化を捉え、問題に対するいくつかの解決策を考える	・目的に応じた情報活用を通して、モデル化やシミュレーション等を行いながら情報の傾向と変化を捉え、多様な立場を想定し、問題に対する多様な解決策を明らかにする	
			②様々な事象を情報と結び付けて捉える					○	・相手の意識し、わかりやすく表現する	・相手意識や目的意識をもって、情報を組み合わせて表現する	・目的や意図に応じて複数の手段を組み合わせて表現し、聞き手とのやりとりを含めて効果的に表現する	・目的や意図に応じて情報を統合して表現し、プレゼンテーションやプログラミング等によって表現・発信・創造する	・メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、適切で効果的な組み合わせを選択・統合し、プレゼンテーションやプログラミング等によって表現・発信・創造する	
情報活用能力ベーシックでは教科別の情報活用能力の具体が示されています。(https://japet.or.jp/)														
<考えるための技法> ○【順序付ける】複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える ○【比較する】 複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする ○【分類する】 複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる ○【抽象化する（一般化する、統合する）】対象に関する上位概念や法則を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする ○【関連付ける】複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける ある対象に関係するものを見付けて増やしていく ○【多面的に見る・多角的に見る】対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする ○【具体化する（個別化する、分解する）】対象に関する上位概念・規則に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する下位概念や要素に分けたりする ○【構造化する】 考えを構造的（網構造・層構造など）に整理する ○【理由付ける（原因や根拠を見付ける）】対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする ○【見通す（結果を予想する）】見通しを立てる。物事の結果を予想する ※発達段階に応じて活用したり、各教科等の学習において適切に発揮したりするようにする（詳細は小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 P80～）				プログラミング	・問題の解決や表現活動の際には手順があることを理解する	・問題解決や表現活動の際に、コンピュータとプログラムの関係を体験的に理解し、順次、分岐、反復を含んだプログラムの作成ができる	・問題解決や表現活動の際に、コンピュータとプログラムの関係を体験的に理解し、順次、分岐、反復を含んだプログラムの作成を行い、評価・改善ができる	・問題解決や表現活動の際、論理的な手続きやデータを様々な工夫できることを体験的に理解する ・情報技術の価値を社会や将来に関連付けて考えることができる	・問題解決や表現活動の際、取組の流れを構造化したり、データを統計的に整理したりしてモデル化できることを科学的に理解する ・情報技術を効果的に活用し、生活や社会に役立つ新しい価値を創造できる					
情報モラル	・自分や他の人たちの情報を大切にし、ルールを守って安全に情報手段を使うことを理解する ・コンピュータやインターネットの基本的なマナーを理解する	・情報手段の利便性と危険性を理解し、自分や他の人への影響を考えて適切に使用する ・生活の中での必要となる情報セキュリティを理解する	・情報手段の利便性と危険性を理解し、自分や他の人への影響を考えて適切に使用する ・生活の中で必要となる情報セキュリティを理解する ・情報社会での情報技術の働きや産業や国民生活の関わりを理解する		・情報手段の利便性と危険性を理解し、自分や他の人への影響を考えて適切に使用する ・生活の中で必要となる情報セキュリティを理解する ・情報及び情報技術を創造しようとする ・情報活用を効率化の視点から評価・改善しようとする	・情報手段の利便性と危険性を理解し、自他の責任や義務、社会に及ぼす影響を踏まえて適切に使用する ・情報社会における情報セキュリティの対策・対応を科学的に理解する ・情報や情報技術を多様な視点から考えることによって、望ましい情報活用を提案しようとしたり、よりよい生活や持続可能な社会の構築に活かそうとする								

<確認>プログラミングや情報モラルの視点を A、B、C のそれぞれの学習の中に組み込んだ授業設計をします。様々な教科学習の中に、プログラミングや情報モラルの視点を組み込むことで、多様な場面で繰り返し学ぶことが可能となり、より深い理解につながる事が期待できます。

（補足資料）情報活用能力を育成場面における学習の姿の例

項目	小学校			中学校	高等学校
	低学年	中学年	高学年		
知識及び技術	□図書から情報を集める □人に質問して情報を集める □見たり触れたりして体験を通して情報を集める □情報端末のカメラを使って情報を集める □情報端末の起動・終了、カメラアプリで撮影する □情報端末に保存した映像を呼び出す □写真にペイントアプリで書き加えて加工する □集めた情報を比べたり順序を考えたりする □集めた情報を組み合わせる □相手に伝わりやすいプレゼンテーションの方法を考える	□キーボードで文字入力する（10文字程度/分） □クラウドに保存したファイルと呼び出す □様々な図書や辞書から情報を集める □内容を設定したインタビューを通して情報を集める □アンケートの作成、回収を通して情報を集める □実験や観察・訪問を通して情報を集める □Webで情報を集める □知りたい事柄についてWeb検索し、ページを閲覧する □情報端末のカメラを使って情報を集める □写真にトリミング等の加工・編集を加える □集めた情報を比較・関連付けしながら整理する □集めた情報から必要な情報を見つけ出す □数枚のスライドを作成してプレゼン資料を作る □相手に伝わりやすいプレゼンテーションを作成する	□キーボードで文字入力する（20文字以上/分） □クラウドのフォルダ内のファイルを整理する □目的に応じて、図書、辞書、新聞等の中から選択し情報を集める □電子メールを通して情報を集める □現地調査や実験・観察等を通して情報を集める □演算子を用いてWeb検索で情報を絞り込む □社会のルールやマナーを考えて相手にメールを送る □集めた情報をもとに、仮説を検証する方法を考える □原因と結果など情報の関係づけの仕方がわかる □目的に応じてグラフや表を使った情報の整理をする □表計算アプリを使って表やグラフを作る □様々なメディアを組み合わせて相手に伝える方法を考える □文書作成アプリを使って原稿用紙1枚程度の文書をつくる □スライド作成アプリを使ってまとまりのあるプレゼン資料を作る	□キーボードで文字入力する（40文字以上/分） □ファイルの暗号化やバックアップの操作をする □情報の種類や特性に配慮した情報収集の方法を考える □目的に応じて図書やWeb、調査等を組み合わせて情報を集める □演算子を用いてWeb検索で情報を絞り込む □社会のルールやマナーを考えて相手にメールを送る □比較、分類、関係付け等、目的に応じて情報を整理する □表やグラフを用いて統計的に情報を整理する □共同編集やファイル共有など、クラウドシステムを活用する □文書作成アプリを使って原稿用紙2枚程度の文書をつくる □表計算アプリを使ってデータを集計したり、表やグラフを作る □スライド作成アプリを使ってまとまりのあるプレゼン資料を作る □安全・適切な情報発信・表現・交流の方法について配慮する	□キーボードで文字入力する（40文字以上/分） □クラウド活用や権限設定等のファイルを適切に運用する □国や世界規模の社会課題に基づいて課題設定する □分析の目的に応じて調査の手順を計画する □目的に応じて複数の収集手段を選択しながら情報収集する □演算子を用いてWeb検索で情報を絞り込む □社会のルールやマナーを考えて相手にメールを送る □共同編集やファイル共有など、クラウドシステムを活用する □目的や状況に合わせて統計的に情報を整理する □「考えるための技法」を活用してより妥当な考えにまとめる □表やグラフを使って集めた情報を効果的にまとめる □文書作成アプリを使ってレポート1枚程度の文書を作る □表計算アプリを使ってデータを集計したり、表やグラフを作る □スライド作成アプリを使ってまとまりのあるプレゼン資料を作る □まとめたものを相手にわかりやすく伝えとともに、相手と議論して相互の理解を深める
プログラミング	□道具としての情報端末の存在を理解する	□生活の中での情報端末活用を理解する □プログラミングで動く情報端末を理解する □意図した処理のために順次、分岐、反復を含んだ簡単なプログラムを作成する	□情報の特徴を知る □情報を伝えるメディアの特徴を理解する □社会における情報端末の活用について理解する □手順と情報端末の動作の関係が分かる □意図した処理のために順次、分岐、反復を含んだ簡単なプログラムを作成し、評価・改善する □問題解決や表現したいことの手順をフローチャートで表す	□情報を伝えるメディアの種類と特徴及びその流れを理解する □表現、記録、計算の原理・法則を理解する □デジタル化や自動化とその情報システムの活用について理解する □情報ネットワーク、情報システムの基本的仕組みが分かる □意図した処理のために順次、分岐、反復を含んだ簡単なプログラムを作成し、デバッグ処理をする □課題に対するアルゴリズムをアクティビティ図等で表現する	□情報の流通についての科学的に理解する □メディア及び表現、記録、計算を科学的に理解する □社会におけるコンピュータや情報システムについて科学的に理解する □情報のデジタル化や自動化について科学的に理解する □情報通信ネットワークの構築についての科学的に理解する □情報のシステム化についての科学的に理解する □意図した処理のためにプログラム作成・デバッグ処理をして最適化したモデルに近づける □課題に対するアルゴリズムをアクティビティ図等で表現する
情報モラル	□人の制作物への尊敬や伝えてはいけない情報の存在を理解する □人の制作物への尊敬や伝えてはいけない情報を守ろうとする □情報端末利用時の基本的なルールを踏まえ、行動しようとする □情報や情報技術を適切に使おうとする	□情報社会での情報技術の活用について理解する □自他の情報の大切さが分かる □生活に必要な情報セキュリティについて理解する □情報をやり取りする場合の責任が分かる □自他の情報の大切さを踏まえ、尊重しようとする □情報のやり取りのルール・マナーを踏まえ、行動しようとする □情報メディア利用による健康への影響を踏まえ、行動しようとする □情報通信ネットワークを協力して使おうとする □情報や情報技術を生活に活かそうとする	□情報社会での情報技術の働きについて理解する □情報化に伴う産業化国民生活の変化について理解する □情報に関する自他の権利について理解する □情報ネットワークのルール・マナーが分かる □情報保守の方法や情報技術の悪用の危険性について理解する □発信した情報の社会的影響について理解する □情報メディア利用による健康への影響について理解する □自他の情報の権利を踏まえ、尊重しようとする □通信ネットワークのルール・マナーや情報セキュリティを踏まえ、行動しようとする □情報発信の社会的影響を踏まえ、行動しようとする □情報メディア利用による健康への影響を踏まえ、行動しようとする □情報発信ネットワークの共用意識を持って行動しようとする □情報や情報技術を生活や社会づくりに活かそうとする	□情報システムの種類、目的、役割や特性について理解する □情報化による社会への影響と課題について理解する □情報に関する個人の権利とその重要性について理解する □ルール・法律の遵守により成り立つ社会について理解する □情報セキュリティの確保のための対策・対応について理解する □仮想空間のサイバーセキュリティの重要性について理解する □情報社会における自分の責任や義務が分かる □健康に配慮した情報メディアとの関わり方が分かる □情報に関する個人の権利と重要性を尊重しようとする □社会のルール・法律の遵守を踏まえて行動しようとする □仮想空間を含めた情報セキュリティの対策・対応の重要性を踏まえて行動しようとする □情報社会での自己の責任や義務を踏まえて行動しようとする □メディア利用での健康への影響を踏まえて行動しようとする □情報通信ネットワークの公共性を意識して行動しようとする □情報や情報技術を持続可能な社会の構築に活かそうとする	□情報システムの影響や情報デザインが果たす社会的役割について理解する □情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解する □情報に関する個人の権利とその重要性について理解する □情報に関する法律や制度について理解する □情報セキュリティ確保の対策・対応を科学的に理解する □仮想空間のサイバーセキュリティを科学的に理解する □情報社会における自他の責任や義務について理解する □健康に配慮した日常的な情報メディアの利用方法が分かる □情報に関する個人の権利と重要性を尊重しようとする □情報に関する法律や制度の意義を踏まえて行動しようとする □仮想空間の保護・治安維持のためのサイバーセキュリティの意義を踏まえて行動しようとする □情報社会での自他の責任や義務を踏まえて行動しようとする □メディア利用での健康への影響を踏まえて行動しようとする □情報通信ネットワークの公共性を意識し、望ましい情報活用の在り方について提案しようとする □情報や情報技術を持続可能な社会の構築に活かそうとする

（体系表の活用例：小5理科「雲と天気の変化」単元計画に組み込む情報活用能力育成）

（ブ）プログラミングの視点　（モ）情報モラルの視点

時	学習内容	情報活用能力ベーシック	情報活用能力の具体	学習の姿
1	雲と天気はどのような関係があるのか問題を見出し、予想や仮説を立てる	課題の設定	問題解決したいことの手順を図示する	マッピングで思考の可視化、
2	雲と天気の関係についての仮説を確かめるための観察方法を立てる	課題の設定	仮説を確かめるために必要な情報が何かを考える　問題解決のための情報活用の計画を立てる	フローチャートで課題解決のプロセスの図示（ブ）
3	自分で考えた方法で観察し、記録した結果から雲と天気の関係が分かるものを整理する	情報の収集　整理・分析	目的に応じて収集方法を選択し、情報を集める　集めた情報同士の関係性を見出す	学習者用端末で班ごとに観察　集めた映像をクラウドで共有（モ）
4	集めた観察記録などから考察して、天気の変化の規則性を見出し、自分の言葉でまとめる	整理・分析　まとめ・表現	集めた情報から類似点や規則性を見出す　見出した類似点や規則性を応用しながら問題の解決方法を考える	Jamboard やロイロノートで情報の整理・分類→規則性を見出し（モ）
5	自分の記録とその時の映像などの気象情報を組み合わせて、より確かな根拠としてまとめる	まとめ・表現	「考えるための技法」を活用してより妥当な考えにまとめる　情報を組み合わせて相手に分かりやすく伝える	シンキングツール（Jamboard やロイロノート）　スライドでプレゼン作成・発表（モ）
6	雨や雪と人々の暮らしの関係について自然の恵みや災害について分担して調べる	情報の収集　整理・分析	調査や資料から情報を収集する	Web と書籍の併用
7	気象観測の必要性を理解するとともに、気象情報と生活のつながりについて理解を深める	振り返り・改善	情報活用を振り返り、効果と改善の両方を見出す　情報を創造しようとする	スライドに追加（気象と生活のつながり、自分の考え、情報の取り扱いの振り返り）（ブ）

※まず単元の学習内容を計画し、その時間が情報活用能力ベーシックのどこにあたるのか、そして学齢別の具体でどのような活動になるのか、さらにどのようなツール等を活用するのかと細分化していけば、単元を通した情報活用能力育成のプロセスが組み立てられます。

2－（３）学習を支援するために



資料・情報活用で主体的・対話的で深い学びに

学習指導要領総則の「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の項目として、図書館の利活用について以下のように記載されています。

（７）学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。また、地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること

Ⅰ．教科学習における活用

（１）学校図書館の整備

教科学習で学校図書館を活用するために、学校図書館そのものを利用できるように整備していきましょう。

日本十進分類法（ND C）等によって分類され、所在記号を書いたラベルが貼ってある。

書架の左から右に、分類記号順に配架している。

書架に、配架している本の分類が分かるサインがある。

学習用の机、椅子、ホワイトボード、PC、プリンターなどがある。

情報カード、思考ツールなどを常備している。

内容が古く、誤った情報を与えるような本が書架上にない。



上記のような整備がされていないと、資料や情報を必要なときに探すことがなかなかできず、学習活動における学校図書館の活用が推進されにくくなります。

（２）資料・情報の整備

学校図書館では、学習において活用する資料や情報として、図書、新聞、雑誌、視聴覚資料、電子資料、ネットワーク情報資源等、幅広い収集を求められます。児童生徒、教職員が図書館の機能を活用できるように様々な資料を揃えるようにこころがけましょう。

印刷資料

- 1 図書（単行本、シリーズもの、全集、絵本、年鑑、百科事典、図鑑、辞典等）
- 2 逐次刊行物（新聞、雑誌、年報等）
- 3 その他の印刷資料（パンフレット、リーフレット、カタログ、地図等）

読むことに困難がある児童生徒のための資料

- 1 点字図書
- 2 音訳図書（録音図書、DAISY図書、マルチメディアDAISY図書等）
- 3 大活字本
- 4 さわる絵本・布絵本
- 5 LLブック

視聴覚資料

- 1 オーディオソフト（レコード、CD等）
- 2 ビデオソフト（DVD、ブルーレイ、映画フィルム等）

電子メディア

コンピュータによって利用可能となるデータ、プログラム等（CD-ROM、DVD-ROM等）

郷土資料の作成について

地域や自治体が作成したパンフレットやリーフレット、広報誌、PR誌等は、時期を逃すと手に入りにくいものが多いので、普段から積極的に収集・整理しましょう。児童生徒・教職員が利用しやすくするために、テーマごとにファイル等にまとめた「情報ファイル」を作成し、継続的に収集します。

(3) 年間計画の作成

鳥取県立図書館 学校図書館支援センターのホームページには、学校図書館活用年間計画作成のための資料(小学校版、中学校版)を東中西部地区別に掲載しています。これらの資料をもとに、どの教科の、どの単元で、図書館を活用するのか、年間活用計画を立てましょう。

◆ステップアップ表◆

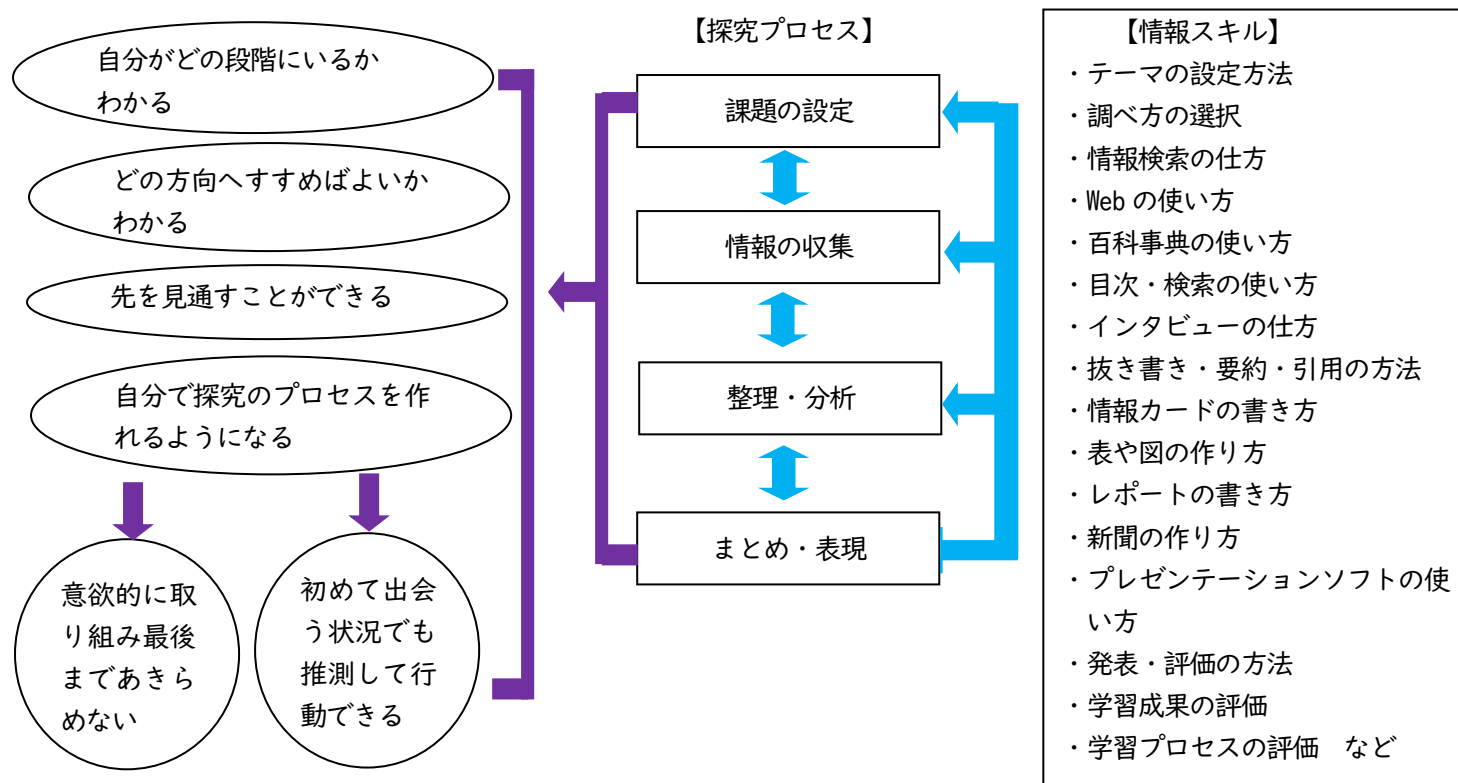
	ステップ1	ステップ2	ステップ3
学習センターとしての学校図書館	☐ 授業で利用できる資料がある。 ☐ 一部の教員が授業で図書館を活用している。	☐ 授業に関連した資料が十分に入手できる。 ☐ 多くの授業で図書館が活用されている。	☐ 全教科で図書館活用の授業が計画的に実施されている。 ☐ 司書教諭や学校司書がTTとして授業に参加している。

『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック』より



探究的な学習で情報活用能力の育成

学習指導要領解説の総合的な学習の時間編に、探究的な学習の過程を「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の4段階として説明しています。この過程を、試行錯誤しながら行ったり来たりして繰り返し体験する中で、情報活用能力の育成をめざしていくことが大切です。



全国学校図書館協議会「どう使う？学校図書館と1人1台端末はじめの一步」より

例えば、児童生徒が情報収集をする過程で、インターネット検索のポイントの指導、情報検索のためのリンク集やパスファインダーの提供等を繰り返し行うことで、情報活用能力の育成につながっていきます。学び方のツールを学校で共有し蓄積していく必要があります。

【ICT を活用した取組例】

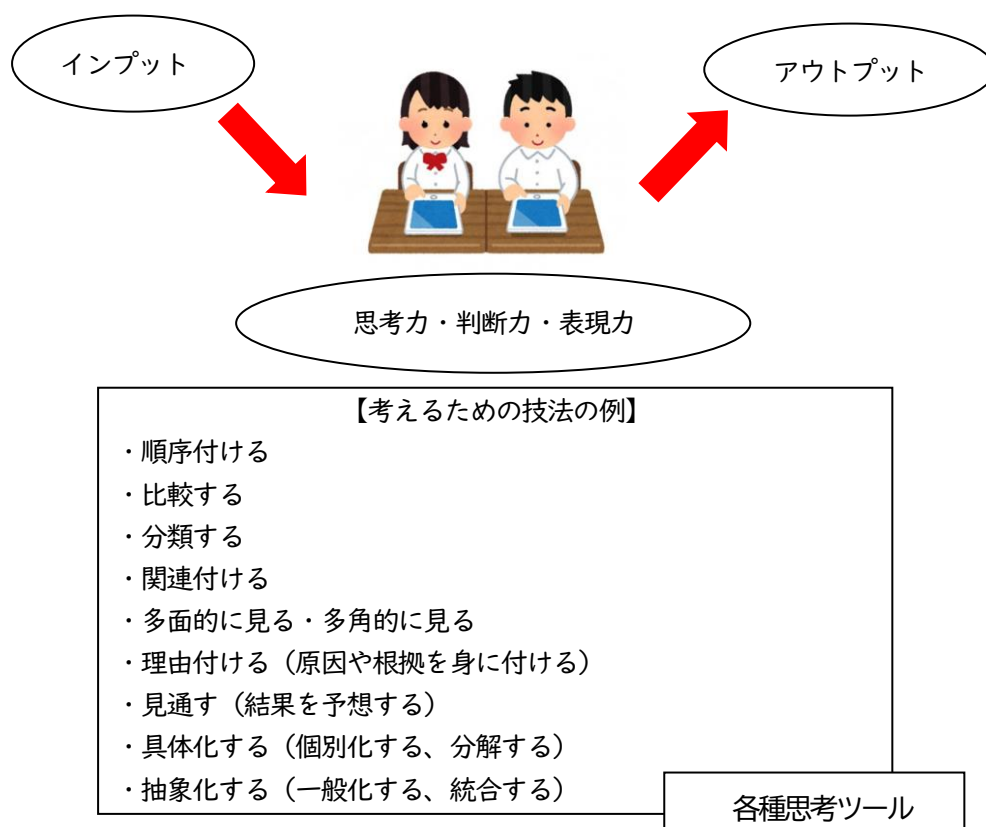
Google classroom で学校図書館の部屋を開設し資料などを配信する

Google サイトを開設し情報検索のためのリンク集を掲載する

QR コードを作成し、情報にアクセスしやすくする

ロイロノート・スクールの思考ツールを活用する

また、「学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」にもあるように、探究の過程全体を通して適切な思考ツールを用いて、「考えるための技法」の指導も必要です。



とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン（改訂版）の中に、「学校図書館の機能を活用することで身に付けさせたい情報活用能力（系統表）」がある。児童・生徒の情報活用能力の育成にむけて、その必要性を全校で共通認識し、どの教科のどの単元で、どの段階で指導するか等、全教科領域を見渡して年間計画を作成し、計画的に効果的に指導することが必要です。そのためには、カリキュラムマネジメントの実施が重要になります。

ステップアップ表

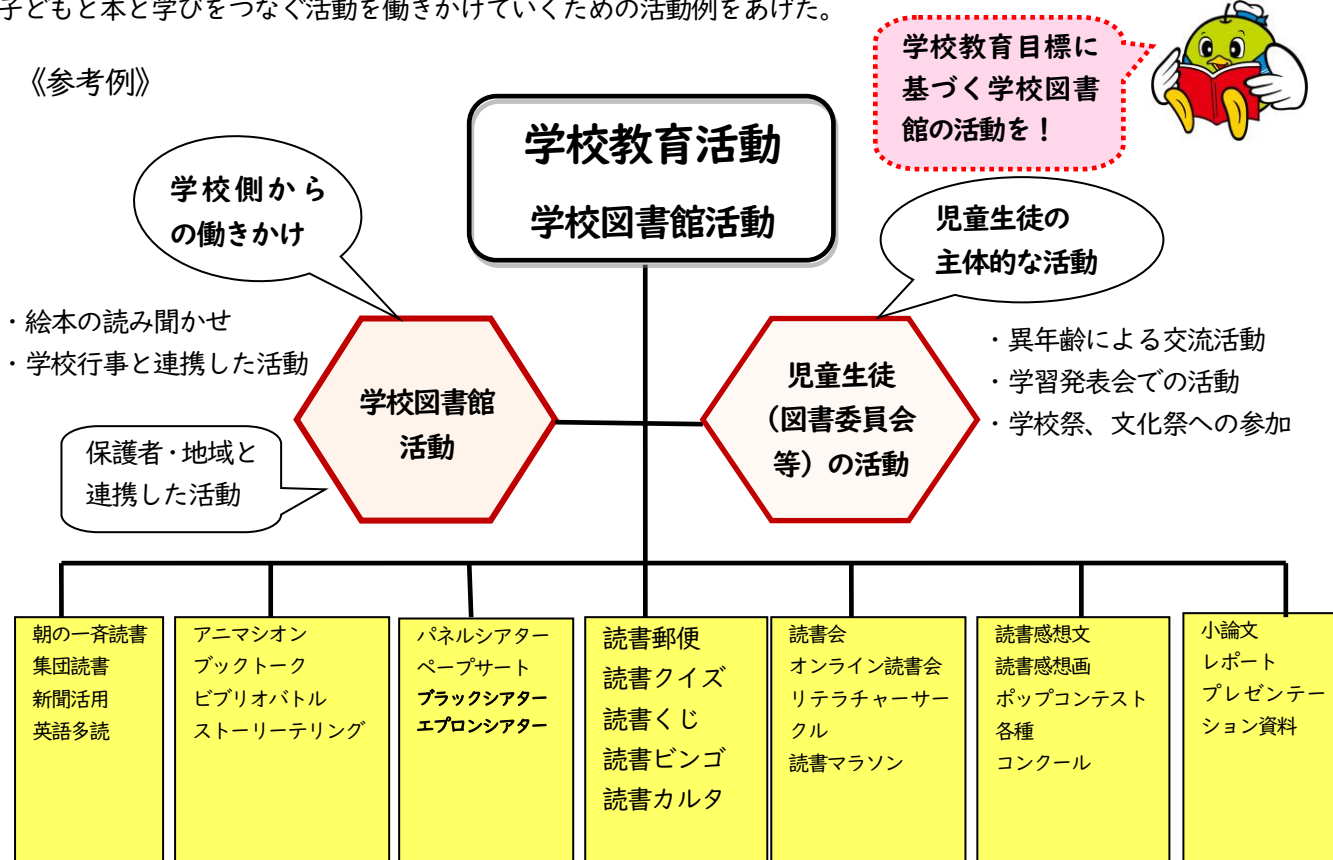
	ステップ1	ステップ2	ステップ3
情報センターとしての学校図書館	☐ 情報活用能力の育成について一部の教職員が認識している。 ☐ 一部の教職員が図書館を活用して探究的な学習を実施している。	☐ 学校図書館活用の年間計画が作成・実施されている。 ☐ 一部の教職員が情報活用能力の指導をしている。	☐ 情報活用能力の指導体系表や年間指導計画が作成され、実施されている。 ☐ 情報活用能力に関してカリキュラム・マネジメントが行われている。

『学校図書館ガイドライン』活用ハンドブック」より

2－（４）読書活動を推進するために

読書意欲を育て、学校図書館を主体的に活用できる児童生徒の活動には様々な工夫が必要である。ここでは、子どもと本と学びをつなぐ活動を働きかけていくための活動例をあげた。

《参考例》



《その他の活動例》

校内での活動例

展示…… 図書館内での展示
校内での展示
文化祭等での展示

図書資料に関すること（各種テーマ別展示・季節行事にあわせた展示等）
授業に関する成果物や部活動に関する関連展示
委員会活動の様子等を展示

広報……POP作り、本の帯の作成、本の紹介メッセージ入りしおり
図書便り等の発行、図書館に関する掲示物の作成
読書イベントの周知（ポスター・チラシ・校内放送による周知）
図書館の Google classroom を作成、図書館サイトの開設、本の
予約蔵書検索システム導入、QR コードの活用



季節に合わせた展示（クリスマスツリー）

校外での活動例



- ・幼稚園・保育所・認定子ども園・小学校等への絵本の読み聞かせ
- ・市町村立図書館でのボランティア活動
- ・公民館等での読書活動に参加
- ・他校の図書委員との交流会
- ・書店での店頭選書
- ・POPコンテスト、どくしょ甲子園、調べる学習コンクール等への応募

保育所で絵本を読み聞かせる準備（高校）

学校図書館を通じた児童生徒の活動を積極的に行おう！



(学校内で・異年齢同士で・地域の活動に参加して・・・)
司書教諭や学校司書のでびきがあれば、児童生徒が活発に活動する。児童生徒の「やってみたい!」「自信が持てた!」につながるよう、年齢にあわせた活動をアレンジしてみよう。

図書委員会活動例

教職員の指導のもと、児童生徒が自主的に動くことが重要!!

図書委員会の年間活動計画の作成・役割分担等

- *日常の活動（カウンター業務の手伝い、本の整理整頓、図書館の整備等）
- *図書委員による企画・広報活動（季節・行事の展示、校内放送、掲示物・図書たよりの作成等）
- *図書委員会主催のイベント（図書館クイズ、絵本の読み聞かせ、おはなし会等）
- *図書委員会の Google classroom 作成

その他の活動例



アニメシオン

子どもたちの参加により行われる読書指導の一つ。読書の楽しさを伝え自主的に読む力を引き出すために行われる。ゲームや著者訪問等、様々な形で行われる。

ビブリオバトル（書評合戦）

発表者が読んで面白いと思った本を1人5分程度で紹介し、その発表に関する意見交換を2～3分程度行う。全ての発表が終了した後に、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で選ぶ取組。

ペープサート

2枚の紙に絵を描き、その紙に竹串などを挟んで貼り合わせて人形を作り、串の部分を手を持って演じる紙人形劇のこと。

図書館行事（読書週間や子ども読書の日等）に合わせた活動
学習発表会、学校祭などに合わせた企画展示や活動等

ブックトーク

本への興味が湧くような工夫を凝らしながら、ジャンルの異なる複数の本をテーマに沿って紹介する取組。

パネルシアター

特殊な布を巻いたボードを舞台に、特殊な不織布で作った絵人形を貼ったり、はがしたり、動かしたりしながら物語を展開する人形劇のこと。

本探しゲーム

お題を出して、そのテーマにあった本を探していく取組。ゲーム感覚で楽しみながら、思いがけない本と出会うことができる。

リテラチャーサークル

3～5 人のグループになり、同じ本を各自が違う役割をもって読んだ後に、話し合う取組。役割には、「思い出し屋」「イラスト屋」「質問屋」「だんらく屋」「ことば屋」等があり、1冊を何回かに分けて読む。

ペア読書

二人で読書を行うものであり、家族や他の学年、クラス等様々な単位で1冊の本を読み、感想や意見を交わす取組。読む力に差がある場合も相手を意識し、本を共有することにつなげることができる。感想を手紙等の形で相手に伝える方法がとられる場合もある。

読書会

あらかじめ、各自で同じテーマや題名の本を読んでくる。後日集まってグループで感想を話し合う。



ブッククラブ

同じ本をみんなで少しずつ、数週間かけて読み、お互いに交流していく取組。

Pitch トーク

テーマを決めて、各自が読んだ本を、短くプレゼンする取組。ビブリオバトルの形式を取ってもよい。

味見読書

グループになり、3～5分間と決められた時間で順番に5～10冊程度の本を全て試し読みした後で、1番読みたくなった本を紹介し合う取組。

※子供の読書活動推進に関する有識者会議論点まとめより抜粋

2-(5) 就学前の子どもと読書

子どもと絵本の出会い 幼稚園・保育所・認定子ども園等と小学校の読書教育をつなぐ

○読み聞かせの力○

★親子の絆を深めこころの安定につながります

子どもは、あたたかな声の響きとぬくもりを感じて満足し、人と言葉で気持ちを表す喜びを感じます。言葉を学ぶことで考える力が育ち、人にかかわろうとする気持ちが育ちます。

★豊かな言葉とこころが育まれます

絵本や本を通して触れ合う時間は、楽しいひとときにより子どもの読み聞かせする人への信頼が深まります。

★想像力を養い、学ぶ力の基礎をつくります

本がつくる言葉の世界にふれることは、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにし、学ぶ力の基礎をつくります。

*体にごはん、心に絵本

(鳥取県「体験の風をおこそう」実行委員会、鳥取県教育委員会)



学童期以降
自覚的な学びの時期

小学校～中学校～高等学校へ

学
び
の
芽
生
え
の
時
期



2歳～6歳頃

(ことばの数が増える時期)

絵本のジャンルを広げていきましょう

おすすめの絵本や本

- *昔ばなし
- *物語・童話
- *科学絵本
- *生きもの図鑑 など

絵本以外でお話を楽しむ方法

- *紙しばいを見る
- *おはなしを聞く など

0歳～2歳頃

(ことばを獲得していく時期)



親子の遊びの一つとしてはじめましょう

おすすめの絵本

- *子どもの好きなものが載っている
 - *身近な動物や植物が登場する
 - *生活の中の言葉にふれている
 - *ことば言葉や音の繰り返しがある
- わらべうたや絵本を仲立ちにして心地よい声のやりとりやふれあいを楽しみましょう。

障がいのある子どもが絵本を楽しむには・・・

布の絵本やさわる絵本、点字絵本、拡大写本、マルチメディアデージー図書、大活字本などがある。子どもにあった本を探してみよう。その際は市町村立図書館や県立図書館、社会福祉協議会、特別支援学校等に相談することも可能。

【市町村では】子どもが絵本と出会う機会を支援する活動ブックスタートについて

子どもの健康診査のときなどに、すべての赤ちゃんと保護者に絵本やブックリストを手渡したり、読み聞かせをしたりするブックスタートなどの支援活動を行っている。

また、市町村立図書館では、絵本のよみきかせ、おはなし会等子どもの読書推進に関わる活動を行っている。

【幼稚園・保育所・認定こども園等では】

- ◇子どもの発達や興味に合った絵本の読み聞かせをする。
- ◇子どもなりの絵本への感じ方や楽しみ方を大切にする。
- ◇絵本の読み聞かせなどをとおして、子どもと保育者の心の交流を図り、絵本や物語に親しみを感ずる子どもを育てる。
- ◇一人ひとりの子どもが絵本や物語の世界に浸り込めるように、落ち着いた雰囲気をつくろう。
- ◇心の中に描いたイメージをことばや身体表現など、様々な表現に結びつけていく。
- ◇子どもの目に触れやすい場所に絵本を置いたり、保育室における子どもの動線などを考えて絵本のコーナーを作ったりしよう。